

地域おこし協力隊の制度上の課題について

— 北海道安平町における隊員のヒアリング調査から —

齋 藤 健一郎

この資料は、筆者が担当するゼミナールに所属する学生である本山ひかり（小樽商科大学商学部企業法学科，2019年3月卒業）が地域おこし協力隊に関する卒業論文を作成するにあたって実施した隊員へのヒアリング調査の一部である。本調査は，北海道勇払郡安平町の地域おこし協力隊の方のうち，B（30代，女性，任期2年目），C（30代，女性，任期3年目）の2名の協力を得て，2018年（平成30年）9月26日に実施された（インタビューは3名から実施したが，うち1名が任期中に職を離れたため同人の発言は除くこととした。これに合わせて，他の2名の発言についても文脈上の調整のため一部を省略した）。安平町は，北海道の南西部に位置し，人口は約8000人の町である。

あらかじめ，ヒアリング調査の目的について説明をしておくこととしたい。本調査は，各隊員の活動内容の調査やその評価等は目的としておらず，また，安平町における運用の実態の調査・評価等も目的とはしていない。そうではなく，地域おこし協力隊という制度の課題を探る目的から行われたものであり，特に，主な目的の一つである「移住・定住」を実現する上での課題について，既存の各種調査において指摘されていることと，実際の隊員の現状・実感とを比較検討するという観点から，調査は実施された。そのため，ヒアリング項目は，任期満了後の予定やそのための準備状況が中心となっている。

すなわち，一般社団法人「移住・交流推進機構」が平成29年度に行った地域おこし協力隊に関するアンケート調査¹⁾には，「あなたが、『地域おこし協力隊』

1) 移住・交流推進機構のウェブサイト上に、「調査研究報告書」が公開されている。

隊員として活動を開始される前の『期待度』はどの程度でしたか。また、活動を開始後、現在の活動 への『満足度』はどの程度ですか。」という質問（質問25）があり、10項目について回答が集計されている。この中で、期待度よりも満足度が低くなった項目には、「(1)活動を通じて、自己実現を感じられること（自分の持つ能力や可能性を最大限発揮し、何かを成し遂げること）」、「(2)活動そのものがおもしろいこと」、「(10)活動を通じて、任期終了後の生活がイメージできるようになること（能力が高まる、定住のための準備ができるなど／その地域に定住する、しないに関わらず）」の3つがある（この傾向は、平成24年度の調査から同様である）。

このように、全国調査からは、活動内容について、「地域おこし」という言葉から就任前にイメージしていたことが十分には行えていない状況が少なからずあることが窺われる。そうであるからこそ、任期中の活動が、任期終了後にそのまま定住するための就業等に結びつきにくいのではないだろうか。この資料で紹介するヒアリング調査からは、このように地域おこし協力隊の制度に内在し、全国的な調査からも見られる課題を、より具体的な形で確認することができると思われる。

なお、一点補足として、安平町においては、2019年度、包括連携協定を結んだ企業と連携し、地域おこし協力隊の募集採用部分と生業形成との両マネジメントを強化していく事業に取り組む予定となっているようである。

〔隊員へのヒアリング調査〕

〔隊員Cさんは、任期を終えた後はどのような予定ですか？〕

【隊員C】 私はライフスタイルとしては任期を終えても安平町に住もうと思っ

ていて、いま、次年度に向けて、任期が終わってからのことを考えていきましょうという話を役場の人としていて、NPOのココ・カラさんの傘下に入り、今しているグリーンツーリズム事業をやらせてもらえたらと思っているのと、あとは観光協会の事業を委託してもらえたら嬉しいです。観光協会は、NPOのほうが仕事を振りやすみたいです。個人に仕事を委託するのはなかなか難しいから、そういう団体に入り、団体に仕事を振ってもらうか、あとは講師として、個人で指導者として依頼をしてもらうというのであればできるかもしれません。グリーンツーリズムを広めていこうと思っているけど、全然広まっていなくて、あれもしなきゃ、これもしなきゃって、どうすれば人が来てもらえるような仕組みにできるのかまだクリアではありません。

〔3年では時間が足りないと思いますか？〕

【隊員C】そうですね、3年では……。私の前にもグリーンツーリズム事業をしていた人がいて、グリーンツーリズム事業をやっているという町の方向性があったので、もう少しグリーンツーリズムの動きが安平町であるのかなと思っていました。その時は、企画とか、教育委員会、農林課、まちづくり、という4つの課がグループになって、安平町のグリーンツーリズム事業を考えましょうという動きがありました。でも、補助金が無くなったとともに〔その時の動きは無くなり、今は〕私が細々とやっています。

【隊員B】それは最初、グループでやっていたのですか？

【隊員C】グリーンツーリズムが盛んな遠野に視察に行くなど、視察が多かったようです。視察や、農家さんへのヒアリング。あとは、私が安平町と関わるきっかけの一つであった民泊。私が前に入っていたNPOは自然学校で子どものキャンプ等を行っていて、そこで民泊を取り入れたキャンプをしていました。それで、安平町でも民泊の受け入れをやってみたいというのがあり、NPOで

も子供たちを送り込みたいというのがあり、そこで〔意向が〕合わさったのですが、しかし、なかなか民泊を受けてくれる農家さんが見つかりませんでした。ニーズはすごくあるのですが、受け入れ農家さんが減っています。

〔今は農家でのキャンプはしていますか？〕

【隊員C】 今年はありません。安平町としては農家さんの個数が多い訳ではなく、大阪などから学生がたくさん来ても全員を受け入れるだけの農家さんがいないので。安平町でそういう農家民泊を受け入れるなら、千歳観光連盟というところから安平町さんは何件お願いしますというように、少ない人数を受け入れる仕組みで民泊をできたら良いなという思いがあるのですが、今年は千歳観光連盟さんから声がかかりませんでした。東胆振の中で受けているのは、むかわ町と厚真町が多いようです。

〔今も進めていますか？〕

【隊員C】〔胆振東部地震で〕そういう状況ではなくなっていました。どんな話になっているのかは確認できていません。

【隊員B】 長沼町はそういうのが盛んですよね。

【隊員C】 一番盛んですけど、長沼町で受けきれない部分が千歳観光連盟にいき、千歳観光連盟から安平町で何件か受けてくれないかという流れです。

〔中略〕

【隊員B】 Cさんは自分で予算を考えているのですよね？

【隊員C】こんなことをやりたいと思っていて、この活動だといくらかの参加費を見込んでいるとか、何人必要になるかとか、プログラムの具体的な内容を伝えました。

〔今後の予算についても考えていますか？〕

【隊員C】今までは観光協会の事業費を使わせてもらい、観光協会主催で、体験事業などのグリーンツーリズム事業をしていました。自分の任期を終えた後は、今まで観光協会の事業費でやっていたことでも、できることとできないことがあると思います。町の方で、私が活動で使える事業費を調べる為に、次年度どういふことをやりたいのかの話をしています。私が今やっているグリーンツーリズムの活動は、おそらく人件費を生み出せる仕組みにはなっていないと思うので、事業費とか補助金を使わないと成り立ちません。どうすればお金稼げるのかな、どこから人が来るのかなとか、自分でも考えますが、なかなか出てきません。

〔あまり町からの干渉はなく、活動内容を隊員自身で考えているのですか？〕

【隊員B】地域おこしは、きっとそういうものですよ。

【隊員C】私たちはグリーンツーリズムとかそういう募集をされましたけど、他の自治体では、何地区の地域おこしという〔活動内容を限定していない〕募集の仕方もあります。

〔では、隊員Bさんは、任期を終えた後はどのような予定ですか？〕

【隊員B】予定が全くありません。今、あびらチャンネル〔注、安平町内のエリア放送を活用したコミュニティ放送〕をメインで作らせてもらっていますが、

私は、元々映像の仕事から来たわけではありません。ここでDさん〔別の隊員〕から映像技術などを教えてもらっていますが、果たして全くの素人が1年〔から〕3年間、映像づくりを独自でやったからといって、突然映像で生活をしていけるとは正直あまり思っていない。やってみても自分のセンスのなさをすごく感じます。私も映像の研修会に参加させていただいたり、映像を作っているテレビ局に知人がいるので、どうしたら映像制作が上手になるのかと聞くんですけど、感性だと言われます。例えば、テレビ番組でやっていることを自分が同じように真似して番組を作ったとしてもそれは全然面白くないんだよ、あなたが見たもので何を伝えたいのかを自分の感性で出さない、自分の感性でつくらないと観ている人は絶対面白くないから、と。では感性はどのように磨くのかと聞くと、それは感性だからと言われます。なので、「感性だから」というキーワードが映像づくりの中では大切なかなと思っています。しかし、その感性というのが、自分の中では感じられないのです。映像で食べていくには正直難しいと思っています。

地域おこし協力隊に入ったとき、将来の展望として、映像ばかりをやるとは知らず、3年後の展望まで考えずに入ってしまった。安平の魅力を発信して地域おこしをする、安平の魅力をPRするということまでしか考えていませんでした。なので、最初から、3年後はどうしようかということは全然考えていませんでした。私は自分でどうこうというよりは就職して誰かのお手伝いをするとか、これからも地域のイベントに参加してとか、地域のために何かをしていきたいとは思いますが、自分で企業するなどはありません。

〔任期満了後の活動について町から支援はありますか?〕

【隊員C】安平町には、3年の任期後、どこどこにこのような仕事がありますよ、という仕組みはないと思います。

〔紹介はないのですか？〕

【隊員C】こちらがこんな活動をしたいと思っていますと言うと、町にはこうした活動があり、こういうことには関わられますか？、という紹介はあります。

【隊員B】しかも、割と相談には乗ってくれます。例えば、具体的なことが決まっていたり、こういうやりたいことがありますと言うと、協力的に相談に乗ってくれます。私みたいに何をやっていいか分からないという人は、自分でまず何をやりたいのかを見つけてくれれば、町は相談に乗りますし、できる限りサポートしますという意識を感じます。

【隊員C】でも、何かが用意されているということではないですね。3年間、地域おこし協力隊で活動をして、活動したことをそのまま生かせるような場所は、自分で作っていかなければなりません。サポートはしてもらえそうだけど、場所は自分で探さないとはいけません。

【隊員B】私も、あびらチャンネルの3年後がどうなるかは、全く具体的にはありません。例えば、あびらチャンネルの番組を町として外注して作ってやり取りができないとか、そういうことも一応視野に入れて考えたりはしています。しかし、あびらチャンネル、知名度向上事業の初めての3年後の独立になるので、どういう風になるかは具体的には決まっています。

【隊員C】最初に募集をした段階で、3年後のビジョンは町にもなくて、一緒に活動をしながら残り方を一緒に考えるという感じです。そこまでカチッと決められても、私たちも動きにくいです。私は子どもが好きだから、子ども関係の仕事がもしかしたらあるかもしれないと、グリーンツーリズム〔注、隊員Cが担当している事業〕ではない紹介のされ方もあります。

〔地域おこし協力隊の活動を通じて得られたものは何ですか?〕

【隊員C】スキルを学ぶというよりは、素材に出会うこと、人とかモノだったりネットワークを広げることができたかなと思っています。

【隊員B】この仕事をやらせていただいたおかげで色々な人と出会えて、町中でアビレンジャー〔注、あびらチャンネル等で隊員Bが扮するキャラクター〕って声をかけてもらうとか、本当に色々なつながりができたことは、この仕事をさせてもらったおかげです。安平町に住もうとする人は地域とコミュニティを築いていくのが大変だと思うので、すごくいい機会をもらったと思います。

〔不満に思っていることはありますか?〕

【隊員C】自治体側で、各課で、地域おこし協力隊の役割のあり方に対する捉え方に差異があることです。私は結構自由に活動をさせてもらっていますが、皆の話を聞くと動きづらそうにしている雰囲気を感じるので、そこを役場側で共有してもらえたら風通しがよくなるかなと思います。

【隊員B】私たちは総務課という縦にあるので、他の課が〔私たちが〕何をしているのかは全然知らないと思います。役場のやり方というのがあって、それに馴染むのに戸惑ったこともあります。勝手に課を超えてはいけないというのがあります。上を通して、上の課から他の課にお願いをするとか依頼文書を出さないといけません。地域おこし協力隊同士で撮影をする場合でも、所属している総務課の課長から他の課にお願いをするというやり方があります。それをよく飛び越えて、怒られました。私たちは特別非常勤職員なので、やはりそのやり方に従わないといけません。でも、お願いをしっかりと筋を通したら聞いてもらえますので、ダメだと言われたことはあまりありません。

【隊員C】不満なことは、業務の中で任期終了後につながる活動をやらせてもらう機会を与えてもらえているかどうかについてです。私はそれほど不満には思っていませんが、そう思っている人がいそうな気がします。やはり地域おこし協力隊なので、地域に特化した活動をしてほしいという〔要望があります〕。それもしつつ、3年後を見据えた活動について町が耳を傾けてくれてもいいのではないかと思うことはあります。

〔(任期3年目の隊員Cに対する質問) 任期は3年で足りましたか?〕

【隊員C】どこをゴールにするかにもよりますが、3年で地域がおこせるとは思えません。地域が3年でおこせるんだったら、地域に住んでいる人も3年でおこせると思います。でも、地域おこし協力隊の仕組みでそんなに長くいるのもどうかと思います。活動としては、3年では足りないです。

〔活動を始めてから、イメージに違いはありましたか?〕

【隊員B】私は、あびらチャンネル以外にももっと仕事があると思っていました。私たちは、月一本番組を作ることと、三本の町外向けのPR動画を作るという目標が設定されていたので、それをクリアすることで精一杯です。町が設定している目標がクリアされれば色々なことをやっていいと町は言ってくれますが、それに追われてしまいます。クリエイターで簡単にソフトなどを使いこなせる人だったら、それを終わらせて違うことを色々とできるのだろうと思います。私たちは一本作って、次の企画を考えて、次のアポどりをしてとか、そうしたことに毎月毎月追われてしまっていて、それ以外のことまでいきません。「崖プロ」の計画も〔企画したけれど、〕止まっています。崖プロというのは、北海道内で「平」が付く名前の市町村で連携して何かをやろうというものです。安平、平取、赤平、古平、小平の一市四町で一緒に協力して地域を盛り上げようというものです。そうしたら、他の市町村にも安平町をPRでき、他の市町

村の方にも安平町を知ってもらうきっかけになります。安平町だけではインパクトが弱いから、みんなで組んでやろうと実行委員まで立ち上げたのですが、完全に停滞しています。そちらにまで手が回っていません。なので、企画倒れなこと、うまくいっていないところもあります。

〔では、やりたいことはあまり出来ていないのですか？〕

【隊員B】そうですね。崖プロも許可をもらってやっていて、個人として安平町をPRできることがあればやってもいいと言ってくれていますが、そこまで手が回っていません。〔手が回らないのは、〕私の技術的な問題だけです。

やってほしいことが町としても具体的にあり、そこはなかなか崩せないのでしょう。なので、2年目に入ったときに、月一本ではなくて本数を減らしていただけないかという話をしたら、町外PRにつながることでどうしても何かあったら本数を軽減してもいいと言ってもらったのですが、なかなか……。

以上